

美 をつくし

MIWOTSUKUSHI

vol.178

平成24年(2012) 9月1日 発行



五条河原の芝居小屋 洛中洛外図屏風(右隻・部分)

江戸時代初期(17世紀) 本館・田万コレクション

刀をかついだカブキ者と三人の女がじゃれあう五条橋東詰。河原にはムシロ囲いの簡素な造りの芝居小屋が建つ。舞台中央には三味線を奏でる女。櫓紋の下り藤は、「かぶき踊り」で人気を博した阿国歌舞伎のトレードマークだが、その芸風を模倣した女歌舞伎の一座だろう。慶長・元和年間(1596-1624)を中心に、北野社頭と並ぶ芸能興行の拠点であった五条河原のにぎわいが活写されている。



OSAKA CITY MUSEUM OF FINE ARTS

大阪市立美術館

大阪市立美術館所蔵『九曜秘曆』覚書

当館は『九曜秘曆』(紙本墨画・一巻・29.8×675.4)という白描画像を所蔵している。本誌『美をつくし』でも、昭和47年(1972)70・71号と平成22年(2010)173号掲載の記事で、それぞれ当館学芸員であった阪井卓氏と石川知彦氏が言及しているが、本格的な紹介には至っていない。その存在の希少さに比して、これまで注目されることが少なかった当館の『九曜秘曆』(以下、大美本)について、いま、わずかな紙面ではあるが取り上げてみたい。

白描画像とは經典に説かれた仏の姿かたちなどを図繪したもので、墨線のみあるいは淡彩で描かれるためにこう呼ばれる。そもそもは唐僧が中国より持ち帰ったことがその始まりと考えられ、密教において教を伝承する重要なテキストとして時代を超えて繰り返し書き写され、寺院のなかで師から弟子へと大切に受け継がれていった。密教僧たちは研究資料として古今東西の画像を蒐集し、平安時代以降には多くの画像集が編纂され、さらには新たな画像が作られた。

『九曜秘曆』もまた、種々の經典や画像を参考に密教僧が創案したと考えられる。九曜とは、日曜・月曜・火曜・水曜・木曜・金曜・土曜の七つの天体に、羅睺・計都の二つの妖星をくわえて神格化したもので、『九曜秘曆』とはつまり、星の神々の画像集である。このような星への信仰は古代中国から日本に伝えられたが、九曜の画像やそれにまつわる經典も、元来は中国から伝来した。挿図のように、ある者は女神、ある者は武将といったさまざまな姿に描かれ、星それぞれの働きについて説明が付されている。

大美本はもと京都・西明寺に伝わったものである。絵画としての出来栄は優れているとはいいがたく、のっぺりとした顔には稚拙さがただよう。同じく西明寺旧蔵の『図像抄』(本館蔵)とひとそろいで伝来したようで、『図像抄』目録には『九曜秘曆』が項目として加えられている。目録奥書には「図絵表紙願主自作日光坊実乗仕候 永禄十丁卯年八月六日 □(焼切)寺不出之 (朱注)依為秘中極秘 □(焼切)寺之内ヨリ他寺へ不可出者也」と記される。『図像抄』と『九曜秘曆』はもともと全く別に成立した画像集だが、文字や画風からともに室町時代末期・永禄10年(1567)に書写されたとみてよいだろう。わざわざ

寺院名を焼いており、当初から西明寺に伝わったのかは判別できない。けして他の寺へは持ち出すなど記す一文からは、図像集がいに寺院にとって重要で、かつ秘密裏に伝えられた存在であったかが窺い知れよう。また、別々の白描画像を、ある寺院のなかではひとまとまりのものとして伝承していたことも知られる。

さらに大美本の奥書には「建久二年醍醐報恩院本書了」とあり、醍醐寺の報恩院にあった『九曜秘曆』を底本として書写されたことがわかる。建久2年(1191)は、この底本の書写年代と考えられる。『九曜秘曆』は現存する優品のほとんどがニューヨーク市立図書館やボストン美術館など、海外に所蔵されているが、この報恩院本にあたると思われる写本は寡聞にして知らない。国内の遺例は少ないが、仏教經典や図像類を集成した『大正新修大藏經』には東寺が所蔵する江戸時代の写本が掲載されている。試みにこの刊本と大美本を比較してみると、その掲載順や画像はほぼ一致するものの、子細にみれば大正図像本に描かれる女神像が襟を前合わせにするのに対し、大美本は月曜像など一部の女神像に丸襟が採用され、衣服にはより意匠を凝らすといった異同が認められる。また、大正図像本に欠落する文字が大美本に掲載されることや、その逆の事例も確認できる。また、平安時代の写本であるメトロポリタン美術館本や鎌倉時代のボストン美術館本との比較でもこのような異同は認められ、現存するすべての『九曜秘曆』の写本と校訂を行えば、底本の系統がより詳しく分かるかもしれない。

ところで、当館には星宿像を描いた中国・梁代の絵画『五星二十八宿神形図』が所蔵されており、国内外に名品として知られている。獣頭の、あるいは動物に乗る星々のすがたは、『九曜秘曆』にも通じ、古く中国より伝わった画像が日本において変容した様子を偲ばせる。奇しくも星宿を描く貴重な二つの作品を所蔵するのだが、かたや海外にも出品される人気作品、かたや館内においても滅多に展示されてこなかった珍品である。早晚、ともに展示してみたいと密かに思っている次第である。

<参考文献>
中野玄三「観智院本『九曜秘曆』について」
『続々日本仏教美術史研究』2008年 同朋舎

本館蔵『九曜秘曆』のうち



月曜像 火曜像 計都星および日曜像

特別展

沖縄復帰40周年記念
紅型 BINGATA
琉球王朝のいろとかたち
9月11日(火)~10月21日(日)

紅型(びんがた)は琉球王朝の時代に沖縄で生まれた染めもので、王族や士族など一部の人のみが用いることのできた格調高い衣裳でした。型紙によって防染し、天然の染料や中国渡来の顔料などを使って染めた型染めが多く、フリーハンドによる筒描も一部で用いられました。紅型の模様には中国や日本をはじめ、広く東南アジアとの交易を通して生み出された多彩なモチーフが用いられています。明治維新後の廃藩置県により琉球王国が崩壊すると、紅型制作の機会も減り、衣裳の多くは沖縄を離れ本土のコレクターや研究者の手に渡りました。

今回の展覧では琉球王国国王であった尚家に伝えられた衣裳(国宝)をはじめ、守り伝えられた琉球紅型の衣裳の優品など245点を展覧いたします。このうち洋画家岡田三郎助(1869-1939)が蒐集した松坂屋コレクション58点は初公開となります。



3 3 4

- 1 国宝 黄色地鳳凰蝙蝠宝尽くし青海立波模様衣裳 18-19世紀 那覇市歴史博物館(9/11-9/23)
- 2 国宝 白地流水に菖蒲蝶燕模様衣裳 18-19世紀 那覇市歴史博物館(9/11-9/23)
- 3 水色地菱草花に熨斗模様衣裳 19世紀 松坂屋
- 4 菱草花に熨斗模様白地型紙 19世紀 沖縄県立芸術大学付属図書・芸術資料館



1 2

北 齋

— 風景・美人・奇想 —

10月30日(火)～12月9日(日)

世界的にもその名を知られ、モネやゴッホら印象派の画家たちにも大きな影響を与えた浮世絵師・葛飾北斎(1760-1849)。雄大な赤富士や逆巻く大波、肉筆画に描かれた佳麗な美人たち、さらには『北斎漫画』の中のユーモラスな人物など、北斎は現代の我々をも魅了してやみません。大阪市立美術館においても、昭和23年(1948)には没後100年を記念して北斎を中心とした肉筆浮世絵展を、昭和35年(1960)には生誕200年を記念した北斎展を開催してきました。

本展では、「風景・美人・奇想」という三つの視点により、北斎の作品をご紹介します。第1章「風景」では、最もよく知られた「富嶽三十六景」シリーズを中心に初期から晩年の風景画を、第2章「美人」では、肉筆画や摺物などに描かれた北斎の佳麗な美人たちの変遷を、そして第3章「奇想」では、ユーモラスな作品や見る人々を驚かせる作品など北斎の多彩な世界をご覧ください。



1



3

また、特集「大坂と北斎」のコーナーを設け、一般にはほとんど知られていない大坂との関係についてもご紹介します。今から約200年前、北斎が大坂を訪れたと考えられています。(一説に文化9年[1812]および同14～15年頃)。確かな証拠は見つかっていませんが、北斎が描いた『北斎画式』という絵手本が大坂の版元を中心に出版されていたり、北洲や北敬といった大坂の浮世絵師たちが北斎に弟子入りしたりしていることから、北斎が来坂した可能性はかなり高いと言えるでしょう。北斎の来坂をうかがわせる資料や大坂ゆかりの弟子たちの作品など



2



4

をご覧ください。ご覧いただくことで、北斎をより身近に感じていただければと思います。

重要文化財に指定される「二美人図」や「潮干狩図」をはじめ、北斎の肉筆画・版画・版本など370件あまりが集まるこの機会に、ぜひ北斎をお楽しみください。

- 1 重要文化財 潮干狩図
江戸時代 19世紀
本館(中島小一郎氏寄贈)
- 2 重要文化財 二美人図
江戸時代 19世紀
MOA美術館
(11/20～12/9)
- 3 富嶽三十六景 凱風快晴
江戸時代 19世紀
島根県立美術館
(10/30～11/18)
- 4 北斎漫画 九編
江戸・文政2年(1819)
浦上満氏
(ページ替あり)

特別陳列

酒と食のうつわ — 一杯のなかの小さな世界(仮称) —
平成25年1月10日(木)～2月11日(月・祝)

江戸時代の後期には蒔絵の朱杯が流行しました。当館には森コレクション100枚、カザールコレクション300枚、ウンゲルン・シュテンベルクコレクション50枚など、450枚を数える屈指の蒔絵杯コレクションを有します。なかには著名な蒔絵師の銘をもつ作品も多く含まれています。今回の特別陳列では蒔絵杯の優品を中心に、当館に収蔵されている食のうつわの数々を展示します。



- 1 梅に鶴蒔絵杯
江戸時代 19世紀 本館 森コレクション
- 2 七夕蒔絵杯 桃水銘
江戸時代 19世紀 本館 ウンゲルンコレクション

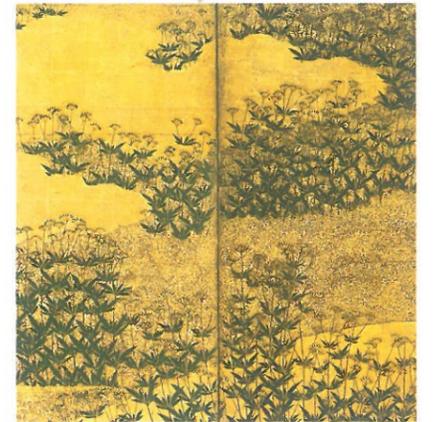
平常展

特集展示
たっぷり見たい屏風絵
9月11日(火)～10月14日(日)

館蔵・寄託の屏風絵から優品20点を大公開! その主題や表現を、(1. 雅一俗、2. 柔一剛、3. 和一漢)の6種3組のモードに切りわけ、大画面のもつ魅力をつまみとご紹介いたします。



舞楽図屏風(部分)
狩野永納(1631-1697) 江戸時代 17世紀 個人



藤袴図屏風(部分)
対青軒印 江戸時代 17世紀 個人

見どころトーク
9月23日(日) 午前11時、午後1時、午後2時(各回20分程度)
講師: 当館インターン(大学院生)

美術講座「洛中洛外図屏風・田万家本とその系列作品について」
9月30日(日) 午後2時～3時30分
講師: 知念理(当館主任学芸員)

中国彫刻
9月11日(火)～10月14日(日)

日本を代表する中国彫刻コレクションとして知られる本館蔵「山口コレクション」を中心に、南北朝・北魏～唐時代(5-8世紀)の石造仏教・道教像および関連する拓本を展示します。



石造 道教三尊像
北魏 延昌4年(515)
本館 山口コレクション

うつつ
現のみほとけ — 仏教美術 —
11月6日(火)～12月9日(日)

仏教經典に説かれる仏の世界は、絶えず造形化され大切に守り伝えられてきました。現世の私たちの眼前に絵画や彫刻としてあらわされた仏のすがたや經典を通じ、その信仰の深さをご堪能ください。



重要文化財 羅漢図(部分)
鎌倉時代 13世紀 京都・大心院

日本工芸 — 金工・陶磁 —
9月11日(火)～10月14日(日)

田万コレクションの和鏡類、有田焼と京焼、田原コレクションの鍋島藩窯の染付・色絵など、日本の原始から近世までの金属器・陶磁器を中心に展覧します。



重要文化財 青銅 萩薄扇面双雀文鏡
南北朝時代 14世紀 本館 田万コレクション

仏教美術 — 彫刻・工芸 —
1月10日(木)～2月11日(月・祝)

関西一円の寺社よりご寄託いただいている国宝・重要文化財の仏像・荘厳具・密教法具を中心に、飛鳥～室町時代の作品を展示します。



重要美術品 木造 役行者倚坐像
室町時代・応永3年(1396) 大阪・河合寺

平常展

中国工芸 一青銅器・陶磁器一

1月10日(木)~2月11日(月・祝)

山口コレクションの工芸品ほか、関西周辺の法人や個人から寄託を受けている、原始・商周時代から明清時代の青銅器や陶磁器を中心に展覧します。



豆彩 瑞果文鉢 江西省景德鎮窯、「大明万曆年製」銘
明時代・万曆期 16世紀 本館 山口コレクション

雛人形

2月23日(土)~3月17日(日)

三月三日の雛祭りにちなんで、京都の「丸平」、東京の「永徳齋」という東西の名匠による明治末から昭和初期にかけて制作された雛人形の世界をお楽しみください。



雛人形 二代山川永徳齋(1858-1928)
明治~大正期 20世紀

小西家旧蔵光琳関係資料

2月23日(土)~3月17日(日)

江戸時代の絵師、尾形光琳(1658-1716)の子孫である小西家に伝来した光琳の生家呉服商雁屋閣関係文書、光琳・乾山に関する文書、写生帖・画稿などから優品を選び展示いたします。

カザールコレクション 楽しい根付

2月23日(土)~3月17日(日)

神戸に住んだスイス人U.A.カザールが大正初年から戦前にかけて集めた根付から動物、仙人、ばけものなどを展示します。機知と技の世界をお楽しみください。



龍文菊罽 箱根付
江戸~明治 19世紀
本館 カザールコレクション



象牙彫 鬮體根付 忠親銘
江戸~明治 19世紀
本館 カザールコレクション

描かれた女性たち

2月23日(土)~3月17日(日)

日本の近代絵画の中に見られる女性たちを紹介します。日本画の北野恒富や島成園、洋画の岡田三郎助らが描く女性たちの姿をご覧ください。



星 北野恒富(1880-1947)
昭和14年(1939)
本館(北野恒富氏寄贈)

展覧会スケジュール 平成24年(2012)9月~10月

※ は休室

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特別展 特別陳列	特別陳列「橋本コレクション 中国書画」											特別展「沖繩復帰40周年記念 紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」																		
平常展	中国彫刻											特集展示 たっぶり見たい屏風絵 中国彫刻 日本工芸一金工・陶磁一																		
美術団体展 (地下展覧会室)	日本書道芸術院展(1・2室) 2012 IFA展(3室) 関西平和美術展(4室)		玄鴻社書展(1・2室) 全国公募日本墨相展(3室) 三軌会写真部移動展(4室)			日本総合書作院展(1・2室) 現代南画展(3・4室)						関西美術文化展(1・2室) 新象展(3・4室)			創造展(1・2室) 集団造形展(3室) 全国硬筆作品展覧会(4室)															

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展 特別陳列	特別展「沖繩復帰40周年記念 紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」																														
平常展	特集展示 たっぶり見たい屏風絵 中国彫刻 日本工芸一金工・陶磁一																														
美術団体展 (地下展覧会室)	墨由會書道展(1室) 大阪市立中学校 総合文化祭美術展(2室) 府美協展(3・4室)			有秋会日本画展(1室) 青朝会日本水墨画展(2室) 行動美術展(3・4室)						青峰美術院展(1室) 太平洋関西展(2室) 日現展(3・4室)			一陽展(1・2室) 日書會展併催日本書道会展(3室) 日本書学院書道展 併設全日本学生書道展(4室)						二科展 併催 こども二科展 (1~4室)												

展覧会スケジュール 平成24年(2012)11月~平成25年(2013)3月

※ は休室

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展 特別陳列												読売新聞大阪発刊60周年 特別展「北斎 一風景・美人・奇想一」																		
平常展												現のみほとけ 一仏教美術一																		
美術団体展 (地下展覧会室)	二科展 併催こども二科展(1~4室)						一水会展(1・2室) 独立大阪展(3・4室)						優待会書展(1室) 日本美術工芸会展(2室) 公募天真全国書道展(3・4室)						環社書展(1~3室) 白鷺会展(4室)											

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
特別展 特別陳列	読売新聞大阪発刊60周年 特別展「北斎 一風景・美人・奇想一」																														
平常展	現のみほとけ 一仏教美術一																														
美術団体展 (地下展覧会室)	環社書展(1~3室) 白鷺会展(4室)		自由美術(1室) 関西新世紀展(2室) アジア水墨画展'2012(3・4室)				近美展 併催近美関西美術展(1・2室) 日本光画会写真展(3室) 太深書道会展(4室)						二元会大阪支部展(1室) 新書派協会展(2~4室)																		

1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展 特別陳列												特別陳列「酒と食のうつわ 一杯のなかの小さな世界(仮称)一」																			
平常展												仏教美術一彫刻・工芸一 中国工芸一青銅器・陶磁器一																			
美術団体展 (地下展覧会室)	大阪市立美術研究所展(1・2室) 一心書道会 新春書展(3室) 大阪を描こう展(4室)				大阪市立高等学校芸術祭 展示の部(1・2室) 元陽会展大阪巡回展(3室) 四ツ橋会新春公募書展(4室)						青潮書道会全国展(1・2室) 近畿独立書展(3室) 日本写真家協会会員展 及び公募展(4室)				大阪府高等学校書道展(1~3室) 全国書きぞめ作品展覧会(4室)				国際高校生 選抜書展(1~4室)												

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展 特別陳列	特別陳列「酒と食のうつわ 一杯のなかの小さな世界(仮称)一」											特別展「第44回 日展」																
平常展												仏教美術一彫刻・工芸一 中国工芸一青銅器・陶磁器一																
美術団体展 (地下展覧会室)	国際高校生 選抜書展(1~4室)		浪速書道展(1・2室) パッチワークキルト展(3室) 書き初め作品展覧会(4室)						全国シルバークラフト展 (大阪版)(1~4室)				近畿大学文芸学部芸術学科 造形芸術専攻卒業制作展(1室) 新春現代画展(2室) 莞秋社書道展(莞秋社全国書道 公募展併催)(3・4室)				2013-ZERO展(1・2室) 全国公募書道展・ 環燈会書展(3室) 全日本アートサロン 絵画大賞展(4室)											

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特別展 特別陳列												特別展「第44回 日展」																			
平常展												雛人形 小西家旧蔵光琳関係資料 カザールコレクション 楽しい根付 描かれた女性たち																			
美術団体展 (地下展覧会室)	2013-ZERO展(1・2室) 全国公募書道展・ 環燈会書展(3室) 全日本アートサロン 絵画大賞展(4室)				2013白亜選抜展 併催白亜関西展(1・2室) 人展(3室) 青桃会展(4室)						関西一陽展(1・2室) 関西一線展(3室) 国際水墨画展(4室)				関西水彩画展(1・2室) 不二現代書展(3・4室)				関西独立美術展(1・2室) 創彩展(3室) 取友会書道展(4室)												

特別展 第44回 日展
平成25年2月23日(土)~3月17日(日)

大阪市立美術館・その他事業のご案内

イベント結果報告

美術館では平成24年7月28日(土)から8月19日(日)の期間、「なつやすみこども企画」として、通天閣など大阪の風景画を展示し、あわせて田村駒株式会社から、通天閣の二代目ビリケンさん制作時にモデルとなったビリケン像を拝借し、特別展示いたしました。また8月5日(日)にはこどもワークショップ「アイ・アム・通天閣」を開催し、ダンボールで通天閣を作成し、できあがった作品を8月7日(火)から26日(日)まで美術ホールに展示しました。



美術研究所

昭和21年に創設され、公立施設としては他に類をみないユニークな専門教育機関としてスタートしました。素描・絵画・彫塑の実技研究の事業を行っています。入所者はまず石膏素描前期からスタートし、年6回ある実技コンクールに合格した者が石膏素描後期、人体素描、絵画、彫塑へ順次進級していきます。

入所検定は、入所希望者に対して年4回(4月、7月、10月、1月)実施します。入所検定申込書をご希望の方は、90円切手を貼った封筒(長形3号)を同封し、入所検定申込書希望とお書き添えの上、大阪市立美術館「美術研究所」宛にお送りください。

- 入所検定/「入所検定申込書」に検定料3,600円を添えて検定実施当日にご持参ください。合否の結果は、別途郵送にて通知します。
◎ 検定要領は大阪市立美術館「美術研究所」までお問い合わせください。TEL:(06) 6771-4874
 - 入所料/5,400円…入所時には入所料と研究料(3ヵ月分)合計26,400円を全納してください。
 - 研究料/月額研究料—石膏前・後期・絵画7,000円/人体・彫塑11,000円…毎月の研究料は前月末までに納付してください。
- 入所検定日:平成25年1月18日(金)・3月29日(金)

友の会

“FINE ARTの世界へご案内します”

友の会では、日曜日に石膏、裸婦、人物コスチューム、静物の日曜洋画会(絵画等の制作)を開催しています。料金は一日当たり、石膏デッサン800円、人体モデル・静物1,500円のチケット制(5枚綴り・バラ売り不可)で、別途モデル料が必要です。

- 年会費 一般4,000円 学生3,000円
- 特典 大阪市立美術館での展覧会鑑賞の優待だけでなく、美術館展覧会に関する情報満載の「友の会ニュース」を配送しています。まず、友の会で活動されてから美術研究所に入所されてはいかがでしょうか。

■ 事務局:大阪市立美術館内

お問合せ: TEL/FAX:(06) 6779-9288 E-mail: tomonokai@osaka-art-museum.jp

随時
会員募集中!!

大阪市立美術館(天王寺公園内)



- 特別陳列 観覧料
一般500円(団体400円)、高大生400円(団体300円)
- 平常展 観覧料(特集展示を含む)
一般300円(団体150円)、高大生200円(団体100円)
中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方は無料 団体料金は20名以上
※大阪市内在住の65歳以上の方は平常展・特別陳列は無料(要証明)
※特別展は別料金。特別展併設時は特別展観覧料で平常展もご覧いただけます。
※平成24年度より常設展は平常展という名称に変わりました。
- 休館日
月曜日(祝日の場合はその翌日)、展示替え期間、年末年始
災害などにより臨時で休館となる場合があります。
- 開館時間
午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)



- 交通
地下鉄御堂筋線、谷町線、JR「天王寺」駅、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅、阪堺軌道上町線「天王寺駅前」駅下車または市バス「あべの橋」停留所下車、北西へ約400m